二億を超える大型健全予算

住民対話で編成される

昭和44年度当初予算案まとまる

3月定例議会で審議

昭和四十四年度一般会計当初予算がまとまり、三月の定例議会に審議される。

予算書によると、総額二億八百六三万千円となり、はじめて二億を超える大型健全予算となった。

昭和三十五年、合併年度予算が六千八百万円であったのが、九年後の今年度は二億を超える大型財政規模村政となっている。

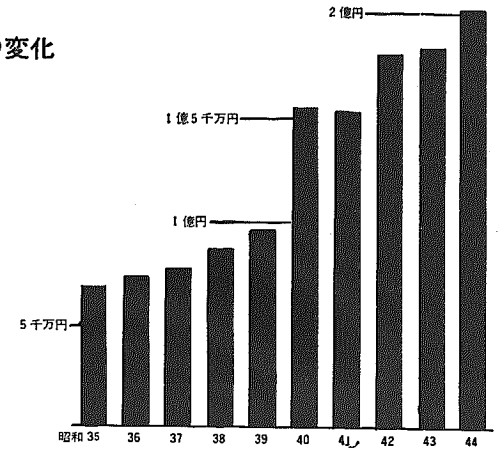
別表によると昭和四十年度に著じるしく大型となっている。これは中学統合建設に着手したためで教育費が全予算の三九・七%を占める。歳入も国庫支出金、地方交付税が大きく伸びた。

今年度は住民一人当たり約五千九百円の住民税を納付し、住民税の約四倍の予算が住民生活のために費いやされることになる。

この額は昭和三十六年度と比較すると住民税二千八百六〇円を納付し、六千六百円と約二倍強の予算が費いやされているにすぎない。このことをみても、現在村財政が住民サービスを要求され、それに応えて、予算編成されていることが知れる。

今年度予算は村政懇談会、住民相談室の住民の声を、充分に調査、研究され基本に編成されていることが注目される。

（尚予算内容については議会承認後広報でお知らせいたします。）



奨学金貸与条例集

議会に提出

"村長" 教育の機会均等をつよく願う

人づくりによる、村づくりを目指して……

幼児教育・義務教育の充実のために、保育所、学校施設に予算を投入してきた。更に教育村岩室を目指して奨学金貸与条例を三月定例議会に提出され、承認を得れば、今年度より実施される。

これは高校、大学に進学、向学心に燃える村内学生に貸与されるもので、村民から早期実施が要望されていた問題だけに大きな期待がよせられている。

奨学金制度は、広聴会、村政懇談会に「なまのこえ」として、話し合われた問題で、教育委員会において研究され作成された。

村長はこの制度を新年度よりぜひ実施したい意向で、議会で可決されることを強く願っている。

この案によると、対象者は村内に住所を有する子弟で品行が正しく、成績が優れ身体が強健で、経済的理由により、就学困難者に対して、学資を貸与して、教育の機会均等と人材の育成に寄与しようとするもの。

対象人員は、高校五名（年額二万四千円）、大学、高専（年額三万六千円）で、年額三〇万円づつ計上される。

返還金は卒業後十年以内に返還する。猶予、免除の特点も考慮されている。この制度は郡内で数町村しか実施されておらず、今後村としては、この制度を研究して、教育の機会均等を広めようとされている。

みんなの広場

地方自治体の財政難の現在、村は広域行政として、衛生センター、じん芥焼却場、火葬場の『妙有院』の施設を作っていることは、非常によいことと思います。『妙有院』ができた現在、葬祭の簡素化、衛生面と私達の生活改善に大きく寄与しています。

部落の非衛生的な野外火葬場は姿を消しますが、火葬場内の無縁仏や地蔵さんがおきざりにされ、かえり見る人も少なくなって、いますが、これらに対する村当局の配慮を希望します。（一主婦）

将来『妙有院』の利用度と共に部落の火葬場の必要度は少なくなり、放置される心配がありません。無縁塔、地蔵さんの件については希望する部落の申し出があれば『妙有院』内に移転し、手厚く、おまつりしたいと思います。

部落の火葬場が、カ、ハエの発生源の不衛生な場所にならないよう、村民の御協力をおねがいします。（住民相談室より）

広報と村民の皆さんと密接に結ぶために「みんなの広場」欄を以前設けてありましたが、紙面の都合上休んでおりましたが、今後続けたいと思います。村に対する進言、建設的な意見、希望、質問、また隣、近所にPRしたいことがありましたら原稿をお寄せ下さい。

この欄を村政対話のスペースにしたいと思います。なお紙上匿名はかまいませんが、原稿には住所、氏名明記のこと、明記なきもの及びお寄せ下さった原稿も紙面の都合上掲載できない場合もありますので御了承下さい。

住民相談室

村長室を気がるにノックしよう

主権在民の村づくり

村長自ら対話し「責任ある回答」し、そして、住民の皆さんと共に村政を考え合う。好評の『住民相談室』は毎月一日、十五日開催されています。村に対する、要望、陳情など相談なさりたいような場合は『住民相談室』にお気軽におでかけ下さい。

村では村長、助役、収入役が対話し責任ある話し合いができるようにしています。

村政は村民総参加の村政で『主権在民』の村づくりを目標に進められていきます。

四月以来、村政懇談会、広聴会を実施、住民の声を村政に反映してきた。

村政懇談会の意見、要望は、「なまのこえ」として、小冊子にまとめられ、村の進むべき進路の資料とされている。

この『なまのこえ』は他町村からも、村政資料にしたいから譲ってほしいとの申し出もあり、岩室村の住民の声を基にした村行政は関心を持たれている。

私達の村を中心にして「住民との対話」の波紋は広がっています。

これは従来の行政管理は村長らの為政者がきめるという。内部管理的なものがかったが、住民意識の芽ばえと共に、住民とのコミュニケイション、意思疎通ということの必要性が強調されてくる。

私達住民は「住民との対話」というものに今度一層、疑問と関心を示す必要があると思います。

なまの声の吸収がたんなる政治的ジスチャーであっては困ると思わなければなりません。

対話をして、私達住民大衆の意思はなんであるかよくみきわめてもらわなくてはなりません。

個人々々の自分の利害に関することにとらわれすぎている意思は公共意思とはいえないです。

私達住民の自分個人の利益だけの意見、要望はつつしまなければなりません。

地域住民の幸せを願って要望、意見が話し合われている二月十五日開催「住民相談室」より

清らかな水を求めて

十四キロパイプライン

埋設工事始まる

岩室、巻、西川の三町村の竹野町用水路上流からの共同取水施設工事は雪どけをまっていよいよ本格的に始まる。

六月には、赤さび中間補水路が完成、私達は、大通川の水が流れこみ、工場廃液のまじった危険な水を飲まなければならない。

だから取水工事の早期完成は住民の強い願いだ。

工事は県の受託事業として一億七千万円投入されている。すでに測量、設計を完了資材の搬入など、一部では住民の声援を受けて工事が進んでいく。

雪の上に延べ一四キロにおよぶ、パイプラインが並び、雪どけと同時に、土の中に埋設され、清らかな水を送る。

雨降りの日どうぞ

「親和会」岩室駅に公徳傘を備えつける

和納地区の勤労者一八〇名の会員で親ぼくを計ろうと組織されている『親和会』（池田正勝会長）は、岩室駅に、公徳傘二〇本を寄贈、雨降りの際自由に使って下さいと備えつけられた。

この好意は、駅の乗降客に非常によろこばれている。

私の声

菅井レン（横曽根）

①村に望む

寒、雪の朝子供達が吹雪の日登校してくる姿を見るたびに幼い日親に送られて学校に通ったことを思い出します。ブルトーザーによる幹線道路の除雪作業と併せて、あたたかい愛情につつまれた農村の風俗、愛情につつまれた農村、近代化によって殺ばつとして行く私達の農村社会に愛情のある血の通った政治を行なっていただき、小さなる子供達も愛情につつまれた人間味をそなえて育ってもらいたいと思います。

②10年後の岩室村はこう変る

農地が整備され大型機械、省力化された経営により、ゆたかな農村、スカイラインの基地として観光岩室、間瀬海岸、ベットタウンとしての岩室駅周辺、充実した教育施設、保育所、老人の福祉施設をそなえて、家庭婦人もゆとりをとりもどし、教養を見につけ格調高いくらし、楽しい集会場、人間味あふれる村民性、それらを併せもつ岩室村になってほしいものです。

「融和と前進」第二回村民運動会開催準備にとりかかる

大会期日は3月5日・7日・30日・31日の三案を検討中